# えんちょう通信

No.67
令和 4年 4月25日
福島市立清水幼稚園
発行者　佐藤 一男

## 小さな応援団

入園式から、２週間がすぎました。４歳児の「ちゅうりっぷ組」の子どもたちは、だいぶ幼稚園の生活にも慣れてきましたが、それでもやはりまだどこか緊張しているようにも見えます。その点、年長組に進級した５歳児の「ひまわり組」の子どもたちは、昨年１年間の経験がありますから、幼稚園の中のことはすっかりわかっていて、元気いっぱいです。

朝、職員室に、「ちゅうりっぷさん、頑張って。」という明るい声が聞こえてきます。年長組の男の子が、年少組の子に声をかけてくれるのです。年長組の子どもたちは、保育室で一日の予定を確かめると、朝の運動をするために２階の遊戯室に上がって行きます。そのときにちゅうりっぷ組の部屋をのぞき込んで、「ちゅうりっぷさん、頑張って。」と声をかけるのです。そういう姿を何度も見ることができました。

その子は、去年入園してすぐのころ、お母さんから離れて、心細くて「おうちに帰りたいな。」「お母さんに会いたいな・・・。」と思ったことがあったのかもしれません。そんなときに先生に「頑張ろう。」って励まされたことや、友だちに「だいじょうぶだよ。」と慰められたことが、心のどこかにずっと残っていたのだろうと思います。そうして今度は年長になった自分が、年少組の子を励まし、応援する番だ、面倒を見る番だと思っているのかもしれません。素直にほかのだれかを応援することができるのは、素敵だなと思いました。本当に優しい子どもたちです。

高校野球の試合などで、応援団の生徒の姿を見ることがあります。自分が試合をするわけでも、自分が勝ったり、負けたりするわけでもありません。ただ仲間が頑張るのを願って、あの炎天下、重たい旗を振ったり、手のひらにできたまめをつぶしながら太鼓をたたいたりして、声をからして応援します。ただそのことに一生懸命になります。

人は誰かに見ていてもらって、「頑張れ。」と応援されることで頑張ることができます。しかし、人は「頑張れ。」と誰かを応援することで、自分の中に元気が湧いてくるということもあるのではないでしょうか。応援することで逆に力をもらうということもあると思います。自分の力というものは、支えたり、与えたりする相手がいることではじめて生まれるという面もあります。

いろいろな友だちがいて、応援したり、逆に応援されたり、面倒を見たり、面倒を見られたりしながら、子どもたちは「人って、いいな・・・。」ということを学んでいきます。小さな幼稚園ですが、人との豊かなかかわりが生まれています。